

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700109		
法人名	社会福祉法人 本郷福祉会		
事業所名	グループホーム ゆすら		
所在地	福岡県みやま市瀬高町本郷2036番地1 (電話) 0944-63-2122		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 29 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご本人様の生活習慣を大切に、今まで続けてこられた事を入所後も継続できるように支援しています。1日の大まかな流れはありますが、入浴時間や回数も可能な範囲でご本人様のペースで生活していただけるように心がけています。

屋内活動では、体操・ゲーム・軽スポーツ・工作・手芸・ぬり絵・書道・壁面制作・季節ごとのイベント・誕生会・敬老祭など多彩な活動を取り入れています。リビングの広さを活かし、10時・昼食・おやつ・夕食前にフロア歩行を歩き、脚力低下防止に努めています。

屋外活動では敷地内で花を育て、天候に合わせて園外散歩・季節ごとのドライブを取り入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 2 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は田畑やビニールハウスが多く、のどかな環境にある。共有スペースは広く、キッチンを囲み回廊となっている。コロナ禍のため、地域行事などの交流の場は限られているが、日々の散歩の中で地域の方と会話を楽しみ、繋がりを保っている。災害対策については、法人施設と合同で水害避難訓練を実施している。紫陽花や藤棚を観に出かけたり、事業所内イベントではおやつ作りや誕生会、敬老祭で利用者や職員が意見を出し合い、共に楽しんでいる。図書館で紙芝居や本を借りる等、公共施設との関わりもある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 継続と共生 2. 自立と自身 3. 安心と安全 4. 自己で決定 5. 地域と交流の5つをテーマにスタッフの意識を統一共有して日々実践につながるように努めている。	地域との交流や活性化が謳われている事業所理念をパンフレットに記載し、折にふれて確認している。管理者は職員の利用者に対する声掛けや態度、関わり方を観察し、指導しながら職員間の理念の共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していないが、ゆすら周りを散歩する際、ごみ拾いをしたり、生ごみ回収用の樽を設置し、近所の方もこちらに捨てにきている。なすハウスの方からなすをいただいたり、会話も楽しませていただき顔見知りでもある。	散歩途中で地域の方と会話したり、農家の方から茄子や大根のおすそ分けをいただく等、日頃から交流している。コロナ禍のため、現在は地域行事や事業所のイベントでの地域交流は自粛しているが、感染状況を見ながら保育園児の慰問、歌のボランティア、神社の祭りなどに参加する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申込み時、どんな認知症状があるか具体的に伺い支援の方法を教えたり、定期受診時、看護婦さんから入居の費用等の相談を受けたこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では郵送で近況報告をし、後日電話にて聞くことが多かったが、2ヵ月ごとに開催している。地元の民生委員・区長・家族代表・市役所より参加して頂いており、事業所からの報告などを行い、様々な意見を頂いている。例えば、水害での避難指示がでて、ここにいた方が安全な時もあるのではないかとのご意見もある。	利用者や家族、行政職員、町内会役員、民生委員、老人クラブ代表者などが構成員であり、2か月に1回書面で開催している。入所状況や行事報告、事故・インシデント報告、感染症などを議題としている。構成員へは電話で意見を求め、災害訓練や事故対策等の意見を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を2ヵ月に1回当事業所で開催するほか、みやま市地域密着型サービス事業者連絡協議会、柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会、みやま市多職種連絡会議（各不定期開催）に参加し、みやま市担当者と当事業所の取り組み等を伝え情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。	管理者は、日頃から行政と電話や窓口で連絡を取っており、感染症対策などについて意見交換している。今後さらに広報誌の持参や市が開催する地域の活動への参加など、協力関係を深める予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを全職員心がけており、些細な事でも職員間で確認を行い、情報を共有している。他グループホームではどうしているか等、相談することもある。やむを得ず行う場合は、同意書をとるようにしている。また、玄関の自動ドア手前の木戸には鈴をつけ、玄関に行かれたのがわかるよう対応している。	事業所の前に道路があるため、玄関は施錠しており、利用者が外に出るときは職員がリモコンで開閉している。利用者が分りにくい場所に玄関のリモコンがあり、安易に外に出ることができない状態である。外出傾向のある利用者に対して、職員は声掛けや付き添いを行っている。	玄関の施錠は身体拘束に該当するので、玄関を開錠する時間をつくることのできるようケアの工夫の検討をお願いしたい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	いつでも資料を閲覧できるようにしている。また、虐待を未然に防げるよう日頃より職員間で注意しあうように心がけている。スピーチロックを使っていないか自己確認表を使って再確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、契約時にご家族様へ説明をしている。過去に成年後見制度を利用されている方が入居された際は、勉強させていただいた。又、「他のキーパーソンの方より、まさに自分が知っておいたほうが良い制度ですね。」と話されていたこともあった。	管理者は権利擁護に関する制度について入居時に家族へパンフレットを用いて説明している。権利擁護に対する研修を今年度も実施する予定である。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一緒に読み合わせをしながら説明をしている。疑問に思われたこと、不安なことがないか途中伺っている。契約解除の際は、利用日により日割り計算となる旨を説明している。報酬加算等による料金改定の際は、事前に手紙で告知し、来訪時に書面にて再度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の雑談や入浴、ドライブ時に表情等で要望をくみ取れるよう心掛けている。又、ご家族様の面会時には、必ず日頃の様子や施設側の対応を報告し、ご家族様の意見や要望をできるだけ反映できるよう努めている。	利用者や家族からの要望は、普段の会話や電話、面会等で聞き取っている。利用者は日頃から意見や思いを職員に伝えることができ、車椅子での一時帰宅や外食、干し柿作り等、出された意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月1回の職員会議で意見や要望を聴取し対応している。管理者は月1回の会議及び毎朝の申し送り時に夜間や日々の気づきを聞き、話し合いを行い反映させている。電動鉛筆削り機、草刈り機を購入していただいた。	会議で職員の意見を聴く機会を設け、出された意見を運営に反映させている。おむつ使用方法やリビングの席替え、行事企画など職員主体で話し合っている。管理者は必要に応じて職員と個別にコミュニケーションを図り、相談しやすい環境を作っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映し、年度毎に可能な範囲で必要備品の購入や労働環境の整備・調整を行ってきた。昨年8月最低賃金の見直しで賃金表を改定し、職員全員基本給のベースアップを実施、処遇改善加算（Ⅰ）特定処遇改善加算（Ⅱ）ベースアップ等支援加算を算定し、手当一時金を支給、賞与支給を行った。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人代表と管理者が職員採用の面接を行っており、年齢や性別で排除しないようにしている。法人の定年は71歳と規程されているが、能力に応じその後は、パートとして働くことも可能になっており、71歳以上の方も働いている。	管理者は、職員に対してスキルアップのために外部研修への参加を促し、法人は受講料の補助やシフト調整など支援している。今後も研修参加や資格取得に関して職員自ら進んで取り組むことができるよう工夫していく予定である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回、職員会議を開催し、ご利用者様一人一人のケアについて気づいた事を話し合い、意見を出し合う機会を設けている。	テキストを準備し、職員に対する人権研修を今年度も実施する予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修には参加費、交通費は法人負担で積極的に受講してもらい、研修後の報告書を回覧、会議時に伝達講習を行い、講義内容の共有を図り、知識・技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みやま市地域密着型サービス事業者連絡会（不定期開催）柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡（不定期開催）みやま市多職種連携会議に参加し、研修会や情報交換を行っている。他グループホームより待機者がいたら紹介して欲しいとの電話に紹介したこともある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談はご家族の場合が多いため、ご本人様と会う機会を別に設け、入居について説明し、認知症であっても納得されているか伺っている。住み慣れた場所をドライブしたり、地元の神社に初詣に行ったりしていることを話し、ご本人様の気持ちを引き出し受け止めることに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年4回発行している広報誌を見ていただきながら、年間を通してのグループホームでの生活というものをイメージしていただき、不安を抱えるご家族の思いや要望をできる限り実現できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護、歯科、カット、マッサージを必要・要望をもとに対応している。行きつけだった公民館の集まりや旅行に連れて行きたいと話されていたご家族もいらっしゃいますが、コロナ禍で実現していない。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、テーブル拭き、洗濯物干しやたたむ作業等の家事をスタッフと一緒にしながら会話をする時間を持つように心がけている。干し柿作りや餅を丸める作業は、ご利用様が率先されスタッフが教わっている光景がみられた。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手紙や電話で、ご本人様の近況や必要な物等を報告している。気軽に外出できると思えるよう、楽しみが増えるよう、ご家族様との買物・外食支援をお願いしていて快く了承されている。計画書にも盛り込んでいるがコロナ禍で実現できず。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前は地元の祭りや神社、図書館、買物に連れて行った際、顔見知りの方より声をかけていただいたことがあり、話題が広がった。現在、面会は窓越しにして頂いている。ドライブ時には、住み慣れた地元を通して帰ったりし自然と会話ははずむよう支援している。	利用者が以前住んでいた自宅周辺へのドライブを行う等、馴染みの場所との関係が保てるよう支援している。利用者の安心につながるよう友人との面会も支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で洗濯物をたたんでいたりすると自然と私も手伝おうかと集まってこられる光景がみられる。一人ひとりが孤立しないようスタッフが間に入って関わり合い、ご利用者様同志の関係を把握して座席を考えたりしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によりサービスの利用が終了した後も経過を見守った。サービス利用が終了したご家族様より親族の入居相談があった。住み替えが必要となった場合は、移り住む先の関係者に対してご本人様の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ドライブの車中、入浴時によく話されるの中で、その会話の中から暮らし方の希望や意向の把握に努めている。意向の把握が難しい方には、訪問されたご友人の方やご家族様との話の中で、意向の把握に努めている。	職員は、利用者が希望等を言いやすいような雰囲気作りを心がけている。また、日々の暮らしの中で利用者に寄り添い、利用者の発している言葉や表情から思いや意向を推察している。家族や関係者で話し合い、その人らしい暮らしが出来るように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境、サービス利用の経過等を伺っている。地元の神社へ連れて行き、知り合いの方から声をかけられたこともある。思い出話に耳を傾け、プライバシーに配慮しつつ、これまで歩んでこられた人生を少しでも知り得よう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力・わかる力を見極め、フロアの掃き掃除、テーブル・トレイ拭き、掛け布団カバーかけ、薬のタグ切り等、ご利用者様の能力を考慮してできる仕事を手伝っていただいている。仕事をしにきてると思われる方もいらっしゃり、仕事がないなら帰ると話される。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録を時系列で記載し、朝夕の職員交代時に引き継ぎを行っている。月1回の会議や申し送りノートを活用して、課題やケアのあり方についての意見やアイデアを出し合い、話しあった結果をもとに介護計画を作成している。居室担当制ではあるが、全職員が一人ひとりの状態を把握している。容態の変化に対してはその都度対応している。	利用者や家族の要望や心身の状態変化に柔軟に対応し、関係者間で出された意見やアイデアが反映された介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。何かできないことがないか日々試行錯誤している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時車イスの方をご家族の希望により以前住んでらっしゃった自宅で配偶者の法要をするので連れてきてほしいとの要望に答え連れて行った。トイレもそこでできるか検討したが、車イスは入るものの手すりがなく断念し、早めに帰園した。また、高齢なご家族様のため受診に連れて行くこともしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で面会を自粛する前は、ボランティアの訪問、中学生の職場体験受け入れ、地元の祭りや神社に連れて行っていた。地元の方が方言で描かれた地元の話の紙芝居を図書館で借りての読み聞かせは好評である。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様希望の主治医で対応を行っている。往診を希望される方は、往診時報告を行い、ご家族が付添いで受診される方には、介護経過報告書とバイタル表を持参していただき指示を仰いでいる。ご家族対応で皮膚科等受診した時は、主治医へ、職員対応の場合は、ご家族と主治医への報告を行っている。	利用者と家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。基本、通院介助は家族が行っているが、必要に応じて職員が付き添って受診している。受診の結果等については、職員と家族が話し合い、情報を共有している。訪問看護ステーションや主治医との連絡体制を構築している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕に、バイタルや排便確認、夜間や日中及び入浴時の様子等の申し送りをを行い、変化を見逃さないようにしている。月に2回、訪問看護ステーションより健康チェックに定期的に来ていただき、内服の変更、体調の変化等を伝え、相談ののってもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護支援専門員が地域連携室と密に連絡を取り合い、情報交換や相談に努めている。リハビリに関しても、どこまでできるようになってほしいと伝えている。退院時カンファレンスにご家族と同席し参加している。空き室がでた時も相談している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書において重度化した場合の対応に係る方針の説明を行っている。主治医・訪問看護と連携を取りながら、ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、ご家族様の気持ちの動揺に寄り添いながら適切な介護看護が受けられるように、ご家族様と密な連絡を取り合い、情報を共有して支援を行った。	明文化された看取り指針について説明し、利用者や家族の意向を踏まえ、人生の最後にその人らしく過ごせるように関係者で共通認識をもち、24時間体制で、利用者や家族の思いに寄り添った支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、主治医及び訪問看護へ早急に報告を行い、指示を仰いでいる。また、AEDも常備し、必要に応じて設置していただいているサニクリーンより取り扱いを学ぶこともできるようになっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練及び通報訓練を実施しており、うち1回は消防署との合同訓練を行っている。コロナ禍でなかった時は、運営推進会議の日に合わせて行ったりした。年1回法人全体で法人2階へ避難する訓練も行っている。	消防署の協力を得て、昼夜間を想定した避難訓練を実施している。非常用食料や飲料水、排泄用品等を準備している。消防職員や参加者から出された意見や気づきを次回に活かすように取り組んでいる。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様各位に対し、自尊心やプライバシーに配慮した声掛けや対応を心がけている。また、必要に応じて居室等で一对一の個別対応を行っている。研修等にて意識付けを行い、ご利用者様との会話の中で不適切な言葉遣いに気づくこともあり、その際は職員間で注意しあうように心がけている。	管理者と職員は、日頃の関わり方や言葉遣いについて、適宜点検を行い、職員間で注意し合い、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に支援に努めている。また、個人情報の適切な取り扱いや秘密保持について学ぶ機会を持ち、周知徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様から希望を口に出されることが少ない方、うまく口にできない方もいらっしゃるのでは、希望があれば、できる限りの対応を行えるように努めている。また、日頃の会話の中で自然に言ってもらえるような関係性作りと雰囲気作りを心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で声かけや誘い掛けを行い、個々の得意な事やできる事をしていただいている。もちろん、こちらから決めつけるようなことはせず、ご本人様の状態を見極め意思を尊重している。朝のフロア掃き掃除を自分の仕事だと思われてる方もおり、体調を気にかけて様子を見守っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度においては、女性には手鏡や櫛を、男性には髭剃りをお渡しし、ご自身でやっていただくようにしている。その後、できていないところを手伝っている。ご本人様の希望時やスタッフが必要と感じたところに訪問理容を利用し髪を整えてもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日の食事はヨシケイやタイハイより材料を取り寄せ、調理を行っている。もやしの根とりや器への盛り付け、テーブル・トレイ拭き等をしていただいている。冬は、干し柿作り、餅つき器でついた餅を丸めたりと季節の行事となっている。	利用者の好みのメニューや味付けを家庭的な雰囲気提供している。利用者は、テーブルやトレイ拭き、食材の準備を行っている。また、干し柿を作ったり、家族や近隣からの差し入れの野菜を調理し、利用者と職員は同じテーブルで食事をとっている。誕生日会や行事食を実施することにより、利用者が食事を楽しむことのできるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせて食事の量や形態を工夫し、摂取量や水分量を毎日チェックしている。水分の飲みが悪い方には、ご飯に水分を足している。毎月体重測定を行い、増減に注意し、常に把握できるようにしている。アレルギーや好き嫌いに対応、状態によってはミキサー食にしたりしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科により、月に1~2回チェックしていただき、義歯の調整やどこが磨き足りない等のコメントをいただき、食後の歯磨き時にご本人に伝えている。先生からの「よく磨けてますね。」に頑張られている様子が伺える。9人中6人利用されている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけていて、それを元にトイレへ行かれるよう声をかけたり、トイレへお連れしたりしている。パット代金は、キーパーソンも気になる金額なので、1カ月ごとの合計を控えていて増えすぎている時は検討を行っている。シルバーカーを利用されている方は、その中に予備を入れ、声かけで交換できるようになった方もいる。	トイレは分かりやすく表示し、車椅子でも使用しやすいように整備している。職員は、利用者の排泄パターンや兆候を把握しており、自尊心に配慮しながら声かけを行い、身体機能に応じて誘導している。介護用品の使用は、利用者や家族と相談して関係者で検討し、利用者がトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけており、-3日以上の方は申し送りをし、追加の緩下剤を使用している。緩下剤を使用しなくても自然にできるように水分を多く摂取していただいたり、各々の排便時間を把握している。食後に長く座っていただいたり、おやつにヨーグルトを提供したりしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴表に沿って入れるご利用者様を決めるので、曜日や時間は決めていない。頭が痛いから入らないと話される方には、無理強いはせず、明日入ってください。と伝えている。入浴剤を使用し匂いの効果・色をつけ楽しんでいただいている。	風呂は毎日準備し、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。利用者の入浴時に毎回お湯を入れ替えている。個別入浴希望の利用者にマンツーマン対応を行い、利用者や職員のコミュニケーションの場となっている。また、季節感のあるゆず湯や香り彩りのいい入浴剤を使用する等、無理強いはせずに入浴が楽しめるように取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの就寝時間に合わせ、就寝介助や声掛けを行っている。以前、眠剤を利用されていた方がいらっしゃったが、2人不要になられた。寝具も汚されなければ週に1回必ず洗濯し、交換している。就寝前には、居室の室温を適温に保つよう心がけ、快眠できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルをもとに薬のセットをし、セットの確認、服薬後も別なスタッフで再確認をしている。処方の変更になった場合は、服薬チェック表と申し送りノートで全スタッフが情報共有できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ばば抜き、カルタ、しりとり、習字等のレクをしながら、一人ひとりのストレンクスを見極め、テーブル・トレイ拭き、洗濯物干し・たたみ、掛け布団のカバーかけ、フロアの掃き掃除、手すりの消毒等、各自の役割ができています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出レクが思うようにできない中、桜並木、彼岸花、銀杏、紫陽花、ひまわり、コスモスを楽しむドライブは堪能できている。初詣も人が少ない地元の神社へ連れて行き、ご自宅の前を通ったりしている。ご家族希望で法要がある日には、ご自宅へ車椅子対応車で連れて行った。	天気や利用者の体調や希望に応じて、職員と一緒に外へ出て気分転換を図っている。コロナ禍のため、事業所の車両で密を避けて、車椅子の利用者も一緒にドライブを楽しめるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍でできていないが、施設の買物時、一緒に連れて行き買いたいお菓子や化粧品等を買っていただいていた。お小遣いを持ってらっしゃる方もいれば、預かり金を預かっている方もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい時には、意向に沿っている。又、いつでもご友人や家族からの電話の取り次ぎも行っている。毎月、ご家族に近況報告をかねて請求書にご利用者様の様子を手紙に書いて一緒に送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物と一緒に植え育てており、季節感が感じられるようにご利用者様が作成した作品を掲示板や壁などに展示しており、楽しませている。ちぎり絵は玄関にも飾っている。又、湿度・温度を測定し、温度調整を行い、過ごしやすい空間づくりに努めている。	共有空間は、整理整頓・利用者の動線に配慮した家具の配置をしている。ホールは明るく開放的で、利用者が集い、レクリエーション活動の場所として活用している。また、職員と利用者が一緒にちぎり絵の制作や季節感のある植物を育てながら、暮らしの場を整え、家庭的な雰囲気を出している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様がそれぞれにゆっくりとした時間を過ごせるよう、リビングにはソファを置き、席を固定せずに誰もが好きな場所に座れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具、テレビや寝具等を持ってきてもらい、自宅にいるような居心地の良い居室作りに努めている。火を使用しなければ仏壇も置くことが可能なことも伝えている。	居室は家族の協力を得て、使い慣れた家具、寝具、ソファ、テレビが持ち込まれ、家族写真や利用者の若い頃の写真が飾られ、使い慣れた物や好みの物を身近に置き、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設け、ご利用者様が行ききする導線には物を置かないよう整理整頓に努めている。共用トイレには、目印になるよう暖簾をかけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		